

ご挨拶

人も、また企業にあっても、その今日の姿の過半は歴史が形作ったものです。私どもエクセン株式会社は、1915(大正4)年に林自動車製作所として創業し、純国産の第一号自動車を設計製作した創業者である曾祖父 林茂木のもと、自動車の製作、修理を業としていました。1934(昭和9)年国鉄信濃川発電所工事に用いられることとなったフランス製のバイブレータと出会い、この研究製作に取り組みました。コンクリートの質を良くするという意味を表した「コンクリート調質機」として1938(昭和13)年わが国で最初の特許を取得し、以来その製造販売を生業としてきました。この年は、東京都営小河内ダムが着工した年でもあり、ダムコンクリート打設用大型バイブレータも考案、製作されました。私どものバイブレータは満州松花江ダム、朝鮮鴨緑江ダム、九州塚原ダムなど(呼称は当時)土木工事に欠かせない建設機械としての地位を築いてきました。

敗戦後の1947(昭和22)年創業の地浜松町に工場再建。進駐軍からは「コンクリート工事には必ずバイブレータを使用せよ」との命令も出され、1949(昭和24)年「株式会社林製作所」となりました。そして、二代目社長林義郭のもとに販社たる林バイブレータ株式会社を創設、「ハヤシのバイブレータ」として、土木、建築などあらゆるコンクリート工事に対応する専門メーカーとして佐久間ダム、関門トンネル、東京タワー、東海道新幹線、東名高速道路、霞ヶ関ビルなど日本中の工事において、良いコンクリート作りのお手伝いをしてまいりました。

また1983(昭和58)年からは振動技術を生かした製品群をもって、フローエイドシステムなど粉粒体を扱う産業分野にも進出。さらに、道路カッターやダイヤモンド・ドリルそして食品機械といった分野にも幅を広げ、振動機械の総合メーカーとしての地位を築きました。

1988(昭和63)年には製販統合して新生「林バイブレータ株式会社」に、1991(平成3)年には社名も「エクセン株式会社」となりました。工法の変化に応じて「現場打ちから二次製品へ」の流れを先取りし、完全な締め固めと低騒音化を達成した世界最新最大のセグメント打設設備など、東京湾横断道路工事やコンクリート二次製品業界での技術や設備のお手伝いも事業の柱になっています。

三代目社長林秀一のもとに「締め固め」と同様にコンクリート品質に影響を及ぼす「打設後の養生」に視点を据えた「環境機器」の販売事業を開始し、コンクリートバイブレータの更なる進化、そして100年もつコンクリートを実現すべく邁進してまいりました。

要約すると、私たちはコンクリートを締め固める技術と、その為のバイブレータという製品を核とし、振動応用技術とその製品をもって、曾祖父の創業から105年を迎えた今も今後も世の中のお役に立つ企業であり続けたいということです。

本カタログでは振動モータラインナップを一新し、長年ご愛顧頂いていた「KM、EKM」シリーズから「EVS1」シリーズへ変更しました。機種も23機種から57機種に増加し、遠心力(振動力)や振動数の違い、耐食性の強いステンレスタイプ、小型から大型まで幅広いお客様のご要望に対応するようになりました。直流24V、単相100V、200V以外の異電圧も改造品として対応します。

また当社産業機器装置のデモ機レンタルを開始します。振動応用技術を駆使した各種製品に関するお問い合わせを数多く頂きますが、製品スペックに関するお問い合わせにとどまらず「このワークに対して効果はあるのか?」「過去に似たような実績はあるか?」など非常に詳細なお問い合わせが増えています。またお客様が取り扱うワークも多様化し、振動機を用いる目的も多岐にわたるようになってきました。そこでデモ機器を有償でレンタルし、お客様の手元で実際のワークでお試し頂ける環境を準備しました。有償デモレンタル機種は振動テーブル(充填・拡散)、振動スクリーン(篩・選別)、振動フィーダ(搬送・供給)の3シリーズです。HP上にも新しく「デモ機レンタル」ページを作成しましたので、そちらからお申し込み下さい。

さらに純国産第一号自動車を設計製造したDNAを活かし、建設や改修現場の生産性向上、省力化に貢献すべく、バッテリー式運搬台車の販売を開始しました。2020年、最も困難な課題は「人が足りない」という現実です。この人手不足の時代に重量物を運ぶ作業を集めるだけでも大変な苦勞と費用がかかります。そんな現場にもエンジンを使わずにバッテリーで駆動し無線操縦でき、階段500kg、平地1000kgの重量物を安全に搬送するバッテリートラックが活躍します。工場設備の維持補修、仮設、施工現場、鉄道、プラント、電力、リフォームや人が立ち入れない現場など幅広い使い道が可能です。私どもはこの大きな課題にエクセンの製品を通じて取り組み、社会に貢献する事をお約束します。このカタログが現場の皆様のお役に立つことを願っています。

敬白

エクセン株式会社 四代目 代表取締役社長 林 哲平